

えんちょう通信

No.46

令和 3年 6月 16日

福島市立清水幼稚園

発行者 佐藤 一男

「カエルになるまで飼うんだ・・・。」



先週6月11日の金曜日、年長組、年少組の園児みんなで安斉さんの田んぼに出かけました。とても暑い日になりましたが、子どもたちは、みんな元気に自分で歩きました。安斉さんに挨拶をして、小さな網をもって、さっそくオタマジャクシを捕まえ始めました。子どもたちは大喜びです。

今回は7名の保護者の方が、引率ボランティアとして参加してくださいました。素敵な感想をいただきましたので、紹介します。

- 田んぼに着くまでは、「暑い～」と頑張っ歩いていましたが、オタマジャクシを見つけると、すぐに笑顔になって、夢中になっていました。
- 子どもたちひとりひとりが自分でオタマジャクシやアメンボをとってよるこんでいました。何でも自分でやってみよう、自分でやりたいという気持ちがあり、すごく素直だと思いました。
- すばやく逃げるオタマジャクシをどうやったらつかまえられるか、どこにオタマジャクシがいるのかと子どもたちが自分で考え行動している姿が、とてもたくましく、また楽しそうに見えて、よかったです。
- ちゅうりっぷ組の男の子が、田んぼで風に吹かれている稲を見て、「見て！ 風でゆれてるよ。」と田んぼの稲にも興味を示しているのが印象的でした。(私も)なんだかきれいだなと思いました。これがお米になるんだよと声をかけられれば良かったなとも思いました。
時折来る「いい電」にみんなで手をふっている姿もいいなとも思いました。
- オタマジャクシがとれない子がいたときに、「みんなで、とってあげよう！」「あそこにいそうじゃない？」「○○くん、とれますように・・・。」とお友だちを思う様子を見て、いいなとも思いました。
- 帰り道(年長組の女の子と男の子は)、歩いて波立つ水でオタマジャクシがあおられないようにペットボトルを手で持って、気遣いながら歩いていました。そんなことはお構いなしで、オタマジャクシが、タツプンタツプン波にもまれている子もいましたが・・・・・・。生き物を思いやる2人の優しさはとても素敵だとも思いました。



そして、今週の月曜日の朝のことです。年長組の女の子が「園長先生、わたし、家でオタマジャクシ飼ってるの。」
「わたし、カエルになるまで飼うんだ・・・。」
と話してくれました。

炎天下を歩いて行って、やっと捕まえたオタマジャクシです。子どもたちにとっては、かけがえのないオタマジャクシです。立派なカエルになるといいなと思っています。